

第1回地域の会意見交換会の概要

日 時	平成16年5月12日(水) 19時～21時15分
場 所	財団法人柏崎原子力広報センター 2F研修室
参 加 者	- 委員 - 新野(議長)・浅賀・阿部・伊比・金子・川口・佐藤・柴野・田辺・ 高橋・武本・中沢・牧・丸山・宮崎・吉田・渡辺(丈)・渡辺(洋) - 事務局 - 鴨下事務局長・布施課長・名塚係長・桑原主任
欠 席 者	今井・小山・中村・内藤・本間・渡辺(五)

地域の会の活動は公開が原則ですが、今回は委員同士の意見交換等を主にするため、非公開で開催しました。

今後の会の進め方、テーマについて

今後のテーマ等について、意見交換しましたが、次回6月2日の定例会は、全号機運転再開の時期であることから、総括として提言をまとめてはどうか。については保安院・東電のしかるべき方から総括と今後について話を頂き、意見交換をし、最後に提言をすることとしました。

なお、提言の内容は事務局で案を作成、18日に運営委員会を開き、検討することとしました。

- ・ 今後のテーマという点では、国の監視体制、保安院について - 発電所は動き始めたが、まだまだ安心というところまではいかないので。
- ・ 全国各地でプルサーマルを開始しようとする動きが出ていることが心配。全号機がずっと動いてしまうと、次はプルサーマルかという問題もあるので、監視するに値するようなテーマで進めていくことが、地域の会の仕事なのでは。
- ・ 全号機が動くということで、使用済核燃料の問題も出てくる。これが今後どうなるのか。
- ・ 東電の予想を超えて早くひびができたという事実がある。原発のもろさというものがどこではかられているのか。もし数値等を出してもらえるものなら、それについて意見を交わしたらどうか。
- ・ 地盤問題は乾いていない。こういった問題等、原発で自分たちが危険だと思われることを、情報として、またデータとして出してもらい、今後考えていったらどうか。
- ・ 今現在、この会の存在意義はあったと感じている。国も東電も変わったと評価している。これからマニュアルの不備等の問題は出てくるかもしれないが、安心できる方向へもっていけるのではないかと感じている。意見があったような、プルサーマルや地盤の問題等の話は、今のところ必要ないように思う。
- ・ プルサーマルがいい悪いではなく、この会は疑問を解消する場でなければならない。プル

サーマルや地盤の問題で、疑問があるなら、これを議論の対象からはずすことはおかしい。賛成反対は別の問題として、委員の中で疑問があれば、話し合うべき。

- ・ 原発に対して 100%安心を得ているわけではない。それぞれ 1% 2% 安心できないというポイントをみんなで出し合って、話し合ったらどうか。例えば、使用済核燃料の問題など。
- ・ 次回の定例会以降の話題は、運営委員会で案を練ってもらって、提案してもらおうということでもいいのではないか。
- ・ これまで議論してきた中で、国、東電に対して、市民の中にできた不安感は必ずしも解消されたとは言えない。運転再開に際して、市民を代表してというわけではないが、大きくくりでいいから、国、東電、行政に対して、少なくとも今後こういう形でやってもらいたいというような事を、総意でまとめられる部分で出したらどうか。地域の会として、無意味なことではないと思うので。その上で、この次どうしたらいいかということ、話し合ったらどうか。
- ・ 要望書に関しては、不祥事があってはこまるというような内容の程度にしか、まとめられないような気がする。まとめるにしても、単に批判ばかりにならないようなものに。
- ・ 意見をまとめることについては、今がチャンスではないか。不祥事が起き、全号機がとまり今運転再開がされたこの時期に、地域の会としてこれまで何をしてきたか等の PR を含め、国、東電に対して提言することは、必要なことではないか。
- ・ 地域の会は発電所を否定する会ではない。会の総意というのは、全員 100%の意見の総意なのか、多数決なのか・・・というあたりはどうなのか。
- ・ この会の存在意義を示す意味でも、提言する必要があるのではないか。事務局案を運営委員会でたたいてもらってもいいので、要望として出したらどうか。
- ・ 会として透明性がどれ程明らかにされたのかを、まとめる必要があるのではないか。ここは透明性が確保できた、ここはできなかった...という程度であれば、一致した見解としてまとめられるのではないか。
- ・ 一般の人がかなり厳しい目で見えており、今後原子力全体がどうなるのかということに、地域の人に関心を持っている。使用済燃料がどこに行くかはわからないが、こういうことは説明してもらわなければならないし、議論にのせなければならない。となると、提言は国、東電にとどまらず、県なり地元の自治体にもなるのかと。
- ・ 「今後の原子力政策に対して、こういうことを体験した地域の住民として、よりいっそうの関心が高まっております」というようないいまわし。あとは、1年間やってきた保安院に対してとか東電に対してとかの、総合的な意見を述べさせてもらう。ということになると、提言の相手は大臣と東電さんになるのか・・・。
- ・ 今後ちゃんとしてほしい・・・というような内容のものになればいいのではないか。
- ・ 国に提言するなら、保安院の分離独立ということも考えたらどうか。難しい点か・・・。

- ・ 提言は大臣・保安院、東電宛に2パターンくらい用意してはどうか。
- ・ 原案を練って6月2日に提示、決定ということに。
- ・ 事務局：今までの意見をまとめて、事務局のほうで原案をつくり、できあがった時点で運営委員さんにはかるということ。
- ・ 事務局：どうせ文章をぶつけるのなら、保安院・東電のしかるべき人に対して、総意的にはこうですと。そして、文書で出し切れないものも意見として出した方がインパクトがあるのではないか。
- ・ 最大公約数の意見をまとめるということはわかったが、6 / 2 定例会で補足的な意見を言った時、それらの個々の意見がプレスには会の意見としてとられるのではないか。
- ・ 統一した「提言」の文書を出すので、他の補足的意見を言っても、それは個々の意見としてとるのではないか。

情報誌について

従来の情報誌が、あまり読まれていないことから、1年経過を機により読みやすい・親しみやすいものにするため、従来のA4判からタブロイド判・4ページにし、内容も工夫すること、配布は新聞折り込みも検討したが、行政経由で配布することとしました。

- ・ 新聞折り込みという案もあるが、従来どおり行政の配布ルートを利用する。
- ・ 視点というタイトルに関して一部異論はあるが、変更するにも時間がないので、「地域の会」の文字が「視点」と連動されるような形になるような編集を考えてもらう。
- ・ 資料として整理しやすいのは従来の形A4判だが、今回はタブロイド判の4ページ建てでやってみたらどうか。
- ・ 委員からの一言コメントを掲載する案については、日程的にも無理があるので、今回は見送ったほうがいい。その代わりに1年何をやってきたかを載せては。
- ・ 編集方針をキチンと決めないと、会議録を要約できないが、今回はそこまでの議論はできず、従来どおり、各意見を漏れなく掲載することとした。